作家プロフィール　Profil von Kunstlern

Tilman Rothermel

和紙は頑丈でとてもおもしろい素材。普通の紙とは違うので、絵の具の色を安定させるには特別な感覚を要する。

1946年ドイツのシュツットガルト出身。画家。紙を基本としながら、様々な表現技法を組み合わせている。彼の作品は、比喩的表現と抽象的表現の間で揺れ動いているが、彼にとって「抽象」とは、芸術と人間の基本的な関係であると言える。芸術理論として「サインクリティカル理論」を発表。これまでに数多くの国際的な展示会を手がけてきた。自身の画廊「GALERIE am schwarzen meer」のオーナーである傍ら、高校、大学にて教鞭をとる。ブレーメン、プラハ在住。
1975年以降の大規模なアートイベントとして「Kunst auf Markt und Strassen」（オッフェンバッハ）、「Kunstfruhling」（ブレーメン）、「Man spricht vom Kreig」（ベルリン、プラハ、サラエボ、ベニスほか）
これまでに90回以上の個展、180回以上のグループ展を、ドイツ、オランダ、イギリス、チェコ、イタリア、スペイン、キューバ、日本にて開催。リューベック（ドイツ）のギャラリーにてその作品を見ることができる。

Ruth Hampe

和紙は重ねて層にすることで、奥行きと透明性が生まれ、その透明性が独特な色の表現を生み出してくれる。

美術教育、英語、基礎心理学、教育学、社会学などの様々な学問を学ぶ。ブレーメン大学の芸術科学部で教鞭をとるほか、様々なグラマースクールにも勤務している。ブレーメン大学で芸術心理学の博士号を取得。研究テーマは「美的実践の一形態としてのアートセラピー、象徴化の形態の心理的および文化・歴史的研究」。
文化心理学者、芸術心理学者としての研究に加えて、学校、診療所、博物館などでもアートセラピー、芸術的実践に関する様々な社会活動をおこなっている。ブレーメン大学での芸術心理学のポスドク資格保持。フライブルグ・カトリック応用科学大学教授。リハビリとアートセラピーを中心とした治癒教育。アートセラピーにおける、国際的な修士課程の開発。国際芸術、治療学会のドイツ支部長、様々な学術会議や出版物の実績がある。これまでドイツ、日本にて美術展を開催している。

Nanja Heid

越前和紙のような特別にハンドメイドされた素材を使うことは、絵画のクオリティを高める上でもとても重要。

1985年スイス出身。ドイツ南部コンスタンス湖畔の街で、5人きょうだいの末っ子として育つ。彼女は学校を卒業後、オーストラリアを1年間旅し、その後ドイツ北部に移り住むことを決意した。2008年から2015年まで、ブレーメンの芸術大学で学び、学位を取得。2009年に息子を授かった。
彼女の作品はドイツ中で目にすることができるが、代表的なのが「Simone Menne Gallery」（キール）である。これまでに文化上院から、またノイエンブルグ、ブレーマーハーフェンで助成金の支給実績がある。
「Werner Kuhl Award2021」「Koster Award2020」
「Nordwestkunst2017」にノミネートされ、ハノーバーで開催された「Film Fest Spezial 短編映画コンペ2017」で最優秀賞を受賞。2016年の「Winter Open Screen in ブレーメン」では観客賞を受賞。現在はブレーメンでフリーランスのアーティストとして活動中。

Monika Wigger

繊細で透明かつ非常に頑丈な紙で、伝統・歴史へのアクセスと実験的で多様、連続的なアプローチを可能にする。

1959年リップシュタット出身。フライブルグ在住。
フライブルグ応用科学カトリック大学のクリエイティブデザイン教授。CUフライブルグ訓練研究機関にて、アートセラピーの持続的科学教育管理チームの一員である。個人としてもアートセラピストとして活動中。
1977～1982年　ミュンスター応用科学大学　デザインの学位取得・卒業
1982～1984年　ベルリン芸術大学　アートセラピー取得
1985～2016年　ミュンスター大学病院の精神科クリニックにて、アートセラピストとして勤務。アートセラピー、心理療法の導入につとめる。
2014年　デュイスブルグ大学医学部にて代替医療従事者として博士号を取得。
このほか美術大学や大学医学部の講師、アートセラピー機関の設立、眼科、小児科、脳神経外科クリニックでの活動、個人アートセラピストとしての活動など、その活動は精力的かつ他分野に渡る。

朝倉 俊輔

1957年福井県南越前町出まれ。
現代美術今立紙展、国際丹南アートフェスティバル、国際ペーパーアート展、日本のかみ 神展ほか。

斎藤　督

越前市今立地区生まれ。
福井文化服飾学院卒業。
朝倉俊輔、角喜代則、朝日恵子を師事。

宮川 湧己

1992年福井県敦賀市生まれ。
福井県立敦賀高校卒。高校在学中に建築や美術に興味をもつ。現在は建築の仕事をしながら作品制作を行う。

宇野 由希恵

福井県越前市出身。
日本画グループ展、全日本アートサロン絵画大賞、国際丹南アートフェスティバル、染め屋ファイブ浴衣展など。

阪本 幸円

1957年福井県出まれ。
クラコウ国際版画トリエンナーレ、中華民国第13回国際版画ビエンナーレ、「幸展」ほか。個展開催多数。

宮森 昭宏

1957年福井県に生まれる。
福井、大阪、京都、ニューヨークで個展。現代美術今立紙展にて受賞多数。国内外問わず精力的に活動を続ける。

片谷 芳恵

福井県越前市出身。大阪府枚方市在住。
国際丹南アートフェスティバル、ART UNIVE2007、成安ミニアチュール展など。

清水 美穂子

福井文化服飾学院卒業。在学中にアート活動を始める。現在はALL CONNECTのイラストレーター。2019年の丹南アートから、越前和紙での制作を開始。

山河　全

1954年福井県小浜市生まれ。
現在は京都芸術大学客員教授。主な個展として、信濃橋画廊、ギャラリー芦屋、石屋町ギャラリー、ギャラリー恵風ほか。

加茂 那奈枝

1988年福井県生まれ。
金沢美術工芸大学大学院卒。
「異空間のアーティスト現代美術in豊川」など。東京、大阪にて個展。

谷口 康男

国際丹南アートフェスティバル、アジアの紙 かみ展、砂とオブジェ展、素材と表現展、日本と韓国国際現代美術展、イスラエルからのメッセージほか。

山口 圭亮

1998年福井県鯖江市生まれ。
福井工業大学建築土木工学科入学。現在は建築の勉強をしながら、和紙を使った美術作品の制作を行う。

桑野 泰成

1980年福井県福井市生まれ。
順天堂大学卒。2017年から越前和紙に山の抽象画を描き始める。鯖江まなべの館、東京Gallery Waterにて個展。

松原 三郎

1956年兵庫県西脇市生まれ。
1984年の個展を皮切りに、以後年間10回ほどの個展、グループ展に出品する。（横浜トリエンナーレほか）

渡辺 未夏

1995年福井県鯖江市生まれ。
丹南アートヤングアート大賞受賞。
日々の気持ちの整理の為、自分を表現する為に描く。